

ミミズの不思議

この事例は、「ミミズと出会い、興味をもった子どもたち。ミミズのことをもっと知りたいと関わる中で、興味、他の生き物へと広がり、さらに探究心や友達とのイメージの共有や表現へと繋がる」事例です。興味を深めていく過程で、友達との関わりを通し、小さな生き物にも大事な命があることを感じ取っています。自分たちと同じところ、違うところがあることを知り、さらに興味が深まり、広がっています。保育者の子どもたちの興味を捉えた環境準備や、疑問を自分たちで解決していくことを大切にしたい関わりが、「科学する心」の育ちを支えています。

社会福祉法人五倫会 美郷保育園

5歳児

場面1 ミミズとの出会い ～ミミズのことを知りたい～

- ・ 缶けりをしていた子どもたち。大きなドングリの木の後ろに隠れた。Eさんが突然走って来て、「先生！ミミズを石で潰してた。かわいそうだよ」
- Aさん：「え！大変だ。ミミズ死んじゃうよ！」
- Eさん：「**生きるってとっても大事**だよね」
- Bさん：「死なないよ！」と、つぶした子どもが強い口調で言う。
- Kさん：「**だって命は1つだよ！**」
- Sさん：「**みんなだって生きてるんだって。同じだよ**」
- Tさん：「**生きてるって心臓あるんだよ**」
- Iさん：「**ドキドキして動いてるって言ってたよ**。ママから教えてもらったから」
- Mさん：「**ミミズだって動いてた**でしょ。みんなと同じだよ。缶けりして走ってたでしょ」
- 子どもたち：「**本当…！みんなと同じ？ミミズと？**」と、不思議そうな表情。
- ・ みんなは、ミミズについて調べてみることにした。また、苦しそうに動いているのを見た友達の「**土に帰してあげればいいんじゃない？**」という言葉に、**Bさんは土を掘って帰してやることにした**。Bさんは友達の言葉を聞いて、初めて不安になった様子だが、潰すことが悪いことと認めたくない姿もある。

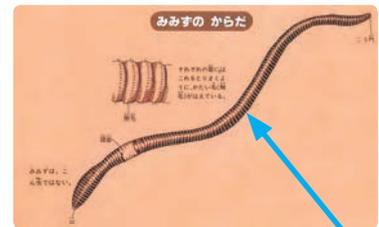
場面2 調べてみよう ～心臓はあるの？～

- ・ ※図鑑でミミズの絵を見てみることになった。
- ・ 子どもたちは、頭の場所・口・肛門・毛など、体の作りに興味をもって読んだり、見たりしていた。
- ・ 特に“再生？”という言葉に反応したため、保育者は辞書を知らせ、「再生とは、切れても、もう一度生えてくるということだ」と書いてあることを伝える。**子どもたちはびっくり。さらに興味をもって図鑑を読み進めていた。**
- Aさん：「**心臓は？無いんじゃないの？**」
- ・ 図鑑には、「心臓がたくさんある」と書かれていた。またまた**子どもたちは驚いた**。
- Kさん：「**僕には心臓が1つだよ！ミミズってすごいなあー。そうか！だから切れても死なないで、動いてたの？**」
- ・ それを聞いたIさんは、少しほっとした表情を見せる。
- Rさん：「**でも、心臓あるもの、いじめたらだめだよ**」と、この言葉に、ドキッとして…。
- Bさん：「今度しない」
- Sさん：「**生きてるものはいじめたらだめだよ。死んじゃえば、ママに会えないんだ。ミミズのママいたかもしれないよ**」
- ・ Bさんは小さな声で、「もうしない…」との言葉やその表情からみんなにも伝わったようで、それ以上Bさんに言う子どもはいなかった。
- Eさん：「**ミミズより小さいアリにも心臓あるのかなあ？**」
- ・ **子どもたちの興味は、アリ、ペンギン、鳥、魚などの他の生き物の心臓へと繋がった。**

保育者の援助や環境構成

保育者は、トラブルも生き物の命を考える大事な機会と考え、子どもたちのやり取りを見守る。

保育者は、子どもたちの興味に応え、ミミズに関する絵、図鑑をいつでも見ることができるよう準備する。



※図鑑「小学館：生き物の観察と飼育」

「頭の場所・細くたくさん節で体ができている・端には肛門が付いている・体全体には見えない毛が生えている・頭の先の硬くなっている所が口・口で穴を掘り土に潜っていく・足の方が切れやすく、切れた所から再生される」



保育者は、子どもたちの話を受け止めたり、共感したりする。疑問に対しては、保育者も一緒に考えたり調べたりして援助をした。



場面3 ミミズのことがもっと知りたい ～暗い所と光～

- ・ 図鑑にあった**ミミズの習性を知る実験を自分たちで試す**子どもたちは、「暗い所で下から電気で照らすと**ミミズは上に出てくる**」ことに興味津々になる。
- ・ 物置では丸くなって座り、ミミズが入った瓶を持ち、ライトの光を下から当ててスタート。みんなソワソワドキドキと落ち着かない。自分たちで、「みんな静かにしないと出てこないよ」などと注意し合う。10～15分後…段々と物置の中が熱くなってきて、みんな集中できず動き出す。

Eさん：「モヨモヨしてみんなミミズみたい」と笑う。

- ・ 20分過ぎた頃に、変化が見られる。瓶を持っていた子どもが異変に気付いた。

Mさん：「あれ？今出てきた？」（動き出したものの、すぐ隠れてしまう）
「あ…今、出てきたと思ったのに」との言葉に、ソワソワ動き出した友達も、もう一度座り直す。そして、**じーっと見つめる**。

Rさん：「ほら！端っこ見て！」

- ・ **瓶の端から伝うようにして上に出てきた。みんな「すごーい！」と感動。**

Hさん：「本当に出てきたね」

Kさん：「ウォ！」（大きい声を出す）

Tさん：「シー、また隠れちゃうよ」

保育者：「出てきたということとは？」

Kさん：「**土の下が明るくって、みんながいる暗い所（物置）に出てきたってこと**」

Rさん：「図鑑って、本当のこと書いてるんだね。図鑑大好き！」

- ・ 物置から出て瓶を見ると、瓶の端にぴったりくっつくようにしている。本当だ！とみんなが感心していると、目の前でミミズは土の中へ入って行った。



保育者は、ドキドキワクワクする気持ちに寄り添い、一人一人の思いに共感する。



保育者は、一人一人のミミズへの思い（ミミズへの愛着、一緒に遊びたい、でも一緒には遊べない、物語の世界で遊びたいなど）を受け止め、友達同士の共有や、お話作りが実現できるような環境を作る。

場面4 ミミズへの思い ～絵本作りへ～

- ・ 実験後、畑に水かけに出かけた時、ミミズを発見すると…。

Sさん：「ミミズ！ミミズいた！ミミちゃんだよ」

Jさん：「ミミちゃんミミちゃんこんにちは一」

- ・ 他の子どもたちも、ミミズの所に喜んで走っていく。

Aさん：「**ミミズと遊べたらいいのにね**」

Rさん：「**遊べないよ**」

Iさん：「**人間怖いんだよ。お話と違うんだから**」

Aさん：「じゃあ、お話作ったらいいじゃない」

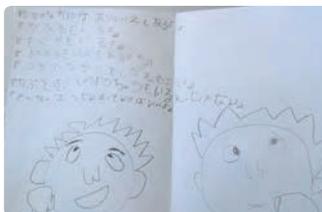
Bさん：「意地悪しないで遊ぶんだよ」（ずっと心に残っているようだが、ここで初めて、潰すことは悪いことと理解し、認めたことが分かる）

保育者：「じゃ何して遊ぶの？」（面白い展開が見られるのではないかと思います聞いてみる）

Kさん：「かくれんぼ。缶けり？」

Rさん：「缶けりはできないよ。みんな走って来て潰しちゃうから駄目！」

- ・ 子どもたちの話し合いから、絵本作りとなった。**土の中の世界を図鑑を見て知ったり、友達とイメージを共有したりしながら絵本作りを楽しむ。**



【考察】 遊んでいる中で起きた一つのトラブルを大切にしたことから、子どもたちが命について考え、さらに興味・関心をもって調べていく姿に繋がった。さらに、図鑑を見たり、ミミズを観たりして、気付いたことを自分たちで確かめてみたいと行動し始める。実際に行動して初めて気付くことや発見すること、疑問に思うことができた。また、様々な考えを言い合い、みんなで取り組むことができたと思う。物が豊かな環境にあるため、子ども自身でどうにか解決しようという意欲が薄れてきているように思う。しかし、自分たちで感じたことから確かめようと動き出し、考える力、想像する力を育み、さらに豊かな感性の育ちにまで繋げることができたと感じている。

今回は、トラブルがきっかけとなったが、ここから「みんなで確かめよう」「感じてみよう」とする姿が見られ、この様なきっかけを見逃さないことが、「科学する心」を深めることであると実感した。